

会員の広場

「漆の実」句会の近況

世界を襲った新型コロナウィルス。多聞に洩れず「漆の実句会」も十五ヶ月の空白を余儀なくされた。令和三年十月、久々の句会を開催した。長い自粛の期間があつて意欲の低下を心配したが杞憂に終わった。各自それぞれの持ち味を見せた作品を披露していただいた。今後の力作も期待できると確信した。

会員の作品抄（令和三年十月句会）

（氏名・五十音順）

給食の芋煮のにほひブログから

給食の地産地消や深む秋

※「ブログ」「地産地消」などの近年の言葉を活かして季節を詠んだ。

父の家いまも不意なる威し統

点灯のタワーマンシオン虫時雨

片山 丹波

大田 甘美

※父の故郷を訪れて驚く大爆音。都会では巨大建築物

と虫の音。今昔の環境落差。

両方へわた飴の賞稚児相撲

停車位置茅刈られあり山の駅

小山八州史

※一切の感情を消して見たままを詠ったもの。人間のノスタルジーを採った。

友の去り猫の毛柔き秋の暮

星月夜猫の眼語り出す未来

佐野 眞

※猫という不思議な生き物。その柔毛にも、また眼にも深い何かがある。

人の居ぬ路地木犀を深く吸ふ

ちははの除籍の記録暮れの秋

濱田 扇風

※木犀の季節。肺の奥底までその香気を吸い込む感慨。二句目、父母を亡くされた哀しみ、謄本を目の前にして尚更に。

変わる町柿の木今もたわわなる

曇天のうなさかを行く律の風

※「うなさか」は海境。海神の国と人間の国を隔つ境

界を言う。作者は湘南海岸近くに居住。海を吹く秋

風の中での感覚。

【小山 八州史・報】

松原 薫子

加藤国雄氏、上杉鷹山の研究報告書を出版

『上杉鷹山の藩政改革と金主たち』 ～米沢藩の借金・再生史』

本会副会長の加藤国雄氏が令和三年六月、『上杉鷹山の藩政改革と金主たち～米沢藩の借金・再生史』を出版しました。

米沢藩の名君上杉鷹山公に関する書籍は、『上杉鷹山の経営学』（童門冬二著）や『上杉鷹山「富国安民」の政治』（小関悠一郎著）、『上杉鷹山 人を活かし、人を動かす』（鈴木進著）などのように、鷹山公の人物像や産業振興、財政再建、学問所の再興などの視点から、これまで多くの歴史家や研究者によって書かれています。加藤氏は長年鷹山公の米沢藩改革を「財務や資金繰りの面から分析・研究」してきており、今回「米沢藩側と金主（大名貸し）側の双方から記載した」としています。加藤氏は本書の目的を、財政破綻寸前の時期に藩主となった鷹山公の藩政改革の過程で、借金に応じた金主たちがどのように米沢藩を支えたかということに焦点を当て

るとともに、金融工学の専門家として独自の視点から藩政を定量的に分析したとしています。

その後、本年十月、『一八三二年金主等リスト』再考、「根岸の本間家」、「鷹山の荻戸善政への一七九三年直書」の三点について『補論』が出版されました。

上杉鷹山の藩政改革と金主たち ～米沢藩の借金・再生史



加藤 国雄

なお、本書を読みたい方は、市立米沢図書館より借りるか、または米沢有為会ホームページ「会員の広場」をご覧ください。

県令三島通庸と山形の近代化
(道路、産業、文化、医療、教育、治安)

初代山形県令三島通庸をNHK大河ドラマに

推薦する米沢市万世会長 梅津幸保

今年の正月、萬世大路保存会の役員有志により懇談会を行ったところ、大河ドラマ化の話が盛り上がり、六月六日に地区内の会員一〇〇人以上の賛同を得て会が発足しました。コロナ禍ではありますが、呼びかけと会員募集をしております。彼の活躍で今の山形県があり、日本の近代化が進められたと言っても過言ではありません。日本の山形の近代化の父として、ぜひとも大河ドラマ化していきたいと思っています。

1 明治初年の米沢

慶応二(一八六六)年六月屋代郷三万石を与えられ、米沢藩は十八万三七四八石余となる。慶応三年十月九日徳川慶喜、大政奉還。慶応四年一月三日鳥羽伏見の戦い、戊辰戦争の始まり。九月八日明治と改元、一世一元が定められる。明治新政府の当面の課題は、政治、経済、社会、文化のすべてにおいて、欧米先進国に早

く追いつくことにあつた。そのため地方の支配体制を整備し、中央集権化を進めた(富国強兵、産業振興、文明開化)。

i 米沢県、置賜県

明治二年六月版籍奉還する。六月十八日上杉茂憲知藩事。明治四年七月十四日廢藩置県。同十一月二日米沢県は置賜県となる。

2

大山形県の誕生

i 鶴岡県、山形県、置賜県

明治九年八月二十一日置賜県・鶴岡県を山形県に併合し大山形県が成立。初代県令三島通庸就任。

ii 県令三島通庸

鹿兒島出身、四十一歳、明治九年八月二十二日付施政八項目：道路・橋梁の整備、学校・教育の振興、病院建設と医学教育、殖産興業政策の推進、綱紀粛正など。

3

殖産振興

i 農業の振興

湿田農業を乾田馬耕に変えた。千歳園に産業試験場を建設。サクランボ、梨、李、杏子、りんご、ブドウ、モモなどが植えられた。果樹園芸の振興。

ii 工業の振興

4

水力機械所を設置、木綿の大量生産。製糸工場の設置、量産化。勸業博物館の設置（産業物産館）。
iii 教育の普及、医療の改善、治安の維持。
東京に通ずる道路の開鑿

物資の輸送、文化の交流を図るため山形県を囲んでいる山々に道路開鑿を計画する。庄内から秋田を結ぶ三崎新道、村山から最上に通ずる猿羽根新道、さらに秋田に通ずる金山・汐音・雄勝街道、仙台に通ずる関山新道、喜多方に通ずる大峠街道、それに福島への刈安新道、中野新道など。

5 栗子山隧道工事

i 荷馬車が往来できる道路

荷馬車で物資を輸送できる新道の開鑿。勾配を一定に取るための設計。

ii 調査の困難（岩盤手掘り―現場鍛冶屋、炭焼き職人、唐箕の送風等）

栗子山（杭甲嶽）を調査したのは山形県属官高木秀明土木課長である。明治九年十月十五日から調査一週間道路開鑿のルートを探索し、次のように報告している。

「深山幽谷上古ヨリ斧斤未ダカツテ入ラズノ地ニシテ狼熊ノ巢窟タリ 時即ニ積雪アリ雪脚ヲ没シ北

風膚ヲ剪ル 雪上ニ糧ヲ食シ樹下ニ露臥ス」
iii 工事の困難 栗子山新道建設期間
着 工…明治九年十一月二十五日 刈安隧道着工
（十年二月十一日貫通、大正十二年七月十二日崩落、以後掘割）

明治九年十二月二十日 栗子山隧道着工（計画明治十年十一月完成予定）

明治十年六月三十日 寸志夫反対運動起る。路線変更・修復（齋藤篤信区長）

隧道貫通…明治十三年十月十九日

開 通…明治十四年十月三日 開通式・明治天皇東

北へ巡幸

栗子山（一、二六m杭甲嶽）の中腹（標高八八四m）に長さ四八二間（約八六七m）幅三間（約五、四m）高さ二間（約三、六m）の隧道を掘る。四年の歳月をかけ貫通した。その後沿道を整備し、明治天皇東北御巡幸の日開通式を行った。総工費十二万七千円。開通後の一日の交通量は、歩行者一一〇人、小荷駄馬者四十台という記録がある。

6 明治天皇東北巡幸

i 高島から米澤へ

明治天皇行幸（米沢日程）明治十四年。明治天皇三

十歳。

十月一日 高島町行在所（東置賜郡役所）御一泊

十月二日 行在所御発、途中亀岡村鈴木吉久衛宅、

川井村堤忠右エ門宅に小休の後、南置賜郡役所御

着。（午後一時四十分）二時五十分興讓学校御臨幸（前

年九月開校、中央八階総三階）後、裁判所、館山製

糸場（天皇の御座所は戦後松ヶ岬公園へ。弓道場と

する）。夕刻、上杉家の重宝、他物産展をご覧。

十月三日 曇天、六時二十分行在所御発、桑山観音

原で小休。御野立所（杉の丸太柱三間四面の東屋

で清水山の水で茶を差し上げた。八時二十分観音

原御発、川越石で小休。九時十分滝の沢御着。小

林徳蔵旅館で御小休。清水を差し上げた（後に明

治泉）。ここから約一里で栗子隧道に御着。入り

口付近の桜井旅館二階上段を御座所にして御昼

食。午後二時隧道を通られる。

ii 萬世大路と命名 ※ 「万世」の名称

明治十五年新道を「萬世大路」と名付けられ、地元

では「ばんせいたいろ」として親しまれている。明治

天皇により「萬世ノ永キニ渡リ人々ニ愛サレル道トナ

レ」という願いを込められて命名された（明治十五年

一月）。明治二十二年市町村制が施行されたとき、梓

7

萬世大路の繁盛

i 宿屋の新設

① 梓山台山に旅館一軒、蕎麦屋一軒

② 刈安に旅館三軒（最上屋旅館外）、遊女屋一軒

③ 瀧の沢に旅館一軒（小林徳蔵旅館）、遊女屋一軒

④ 栗子前に旅館二軒（桜井旅館、松島屋旅館）

ii 運送会社

網木に米沢運送会社の支店が一軒、川越石に二社

の運送会社があった。

味噌醬油など旅館用の物資などが運送されていた。

iii 西南戦争の囚人労役―薩摩藩の先輩が三鳥県政を

援助（流謫日記）

8

福島米沢間鉄道開通

明治三十二（一八九九）年五月十五日奥羽南線

福島―米沢間鉄道開通。所要時間二時間半。（萬世

大路十九年間、（三十八年間廃道後）昭和十二年自

動車道の大改修、昭和四十一年ハイウェイとして開

通（現国道十三号）、平成二十九年東北中央高速道

福島―米沢間開通。

三島県令の略歴

i 出生から青年期

①天保六（一八三五）年六月、薩摩藩士三島道純（数右衛門）、秀の長男。幼名林太郎のち弥兵衛。

②嘉永六（一八五三）年弟伝之丞の決闘切腹死。二年後十九歳、郷中で千田某と諍いあわや決闘。隈之城での謹慎生活三年（二十〜二十三歳）。

③精忠組、寺田屋事件の同士討ち、戊辰戦争など幕末事件に関与。

④明治維新後、三島は薩摩藩庁で会計・民事奉行や都城の地頭等従事。

⑤明治四（一八七一）年十一月東京府に六等出仕、三十六歳。間もなく権参事、参事と栄進。東京大火後の銀座煉瓦街建設、土地税制、府下測量。五年十一月教部大丞。

ii 県令時代

①明治七年十二月酒田県令（教部大丞兼務）、三十九歳。八月農民騒動わっぱ運動（租税過納返還運動）広がる。収束する。

②明治八年八月酒田県を鶴岡県に改め県庁を鶴岡に移す。

③明治九年八月大山形県誕生。初代県令三島通庸。

④明治十五年一月福島県令兼務。七月山形県令解任。

⑤明治十六年十月栃木県令兼任。

⑥明治十七年十月福島栃木の陸羽街道竣工、栃木県庁開庁。安積疎水、那須疎水開通。

iii 土木局長時代

明治十七年十一月二十一日内務省土木局長に就任。国道の番号制や現在の地方整備局の前身にあたる土木局の組織の改正等に携わった。明治十八年十二月寺社局長兼務となる。

iiii 警視総監時代

明治十八年十二月内閣制度化で初めて警視総監となる。明治二十一年十月二十三日警視総監公舎で逝去。享年五十三歳。死因はリュウマチの悪化という。葬儀は青山霊園で行われ、実に一万二千人が最後の別れを惜しんだという。六男六女に恵まれた。

v 妻和歌子

大正十三年十二月三日七十九歳で没す。

以上、簡単に概要を見ていただきました。今後県内、福島県、栃木県、鹿児島県と呼び掛けていきたいと考えております。ご指導ご協力のほどよろしく願います。